

07

起立性低血圧の原因別にみた対策

前項で行ったアセスメントをもとに、原因別の対策を行っていきましょう。

循環血液量低下が原因の場合

→飲水を促す

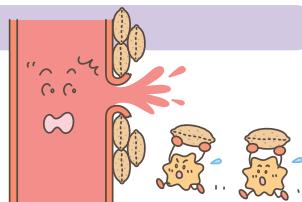
必要に応じ補液などの提案を行う。



出血が原因の場合

→離床をする前に出血源を特定し、しっかり止血を行う

必要に応じて輸血などの提案を行う。



不整脈・心機能低下など心拍出量に原因がある場合

→薬剤（抗不整脈薬など循環器系薬剤）投薬状況を確認

医師に状況報告し、投薬など治療可能か相談する。

離床可能範囲を確認し、多職種と情報共有する。



自律神経障害が原因の場合

→弾性ストッキング 弾性包帯 腹帯などの使用を考慮

それでも血圧低下が収まらない場合、薬剤の投与に加え、起立台を使用した離床を考慮する。



高度侵襲（高度異化亢進）が原因の場合

→リフィリングが起こっているかどうか評価

血管内脱水が起こること前提にリスク管理を行う。



下肢筋ポンプ作用低下が原因の場合

→足関節底背屈の運動を行いながら離床する

弾性ストッキングの使用を考慮する。